

わたし一人ぐらいいは という甘い考えが

ゴミステーションはいま泣いています

ゴミステーションは、基本的な利用ルールを守らない人の手により、空缶やビニール等が散乱し悪臭の漂う場所になりがちです。そこで、ゴミ処理経費節減のためにも、ゴミの出し方をちよつと工夫し、清潔で快適な環境を保つため、皆さんも「現代社会の怪物」とまで言われるゴミの扱い方をいま一度考えてみませんか。

ゴミの区分と出し方には気をつけて

町では、ゴミを「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」とに分けて収集処理していますが、生ゴミや紙くずなどと一緒空缶や空ビンなどが混じっている場合が多いので、ゴミの区分は正確にお願いします。また、通常家庭から出される「生ゴミ」には、70%以上の水分が含まれているため、

収集車1台から出る汚水は、ドラム缶約2本にもなります。このため、最新の施設でも重油なしではよく燃えず、焼却炉の温度も上がらず恐ろしいほど炉が傷みます。従って、家庭で「生ゴミ」を出す場合は、ちよつとひと握りの水を切ることと紙類と一緒に入れることを心がけましょう。

ゴミは収集日に

燃えるゴミは、毎週火・金



ボランティアによるゴミ収集

曜日に収集していますが、最近の状況を見ると、収集日を守らないで出されている場合があります。収集日以外に出されたゴミは、犬や猫等によって荒らされたり、悪臭などでステーション周辺の家庭に迷惑がかかります。

また、空缶等の燃えないゴミについても毎月3・17日の2回収集していますが、いずれにしてもゴミステーションは、「ゴミを置くところ」であり「ゴミを捨てる場所」ではありませんので、ゴミを出す時は収集日の午前8時30分までに指定のゴミステーションへ出しましょう。

美しい郷土を日ざして



関 儀 祐(芝崎)

最近どの自治体でも大きな社会的問題になりつつある問題に廃棄物処理がある。私たちの郷土光町もその例外ではない。町が昭和63年度にゴミ処理のために要した経費は6,595万円と報告されている。このまま推移すると数年たつと1億円にもなってしまうだろう。

ゴミ処理といってもその内容はさまざまである。私は芝崎に居住し、現在区長として集落のゴミ収集所の管理をしているが、捨てられているゴミの内容物にしても、捨て方にしてもその無責任さにはあきれて物がいえない腹立たしさを感している。ゴミ収集所の現状から感じていることを思いつくままに話してみたい。現在のゴミ収集所は収集所ではなくゴミ捨て場と化している。収集所には一定のルールが決められている。このまま

りが全く守られず投棄されている。芝崎区の東部にある収集所は周辺に人家もなく広い用地の一角にあるため自動車からの投棄も可能である。棄てる者にとっては最高の場所である。収集日の時間や曜日は無視されている。特に夜間に他地区から持ち込み投棄されているのが現況である。

ゴミ収集については、町当局も町内放送や印刷物等を通して協力を呼びかけているが全く効果はみられない。要は住民一人一人の自覚の問題であらう。

以上述べてきたように、社会生活をするためのルール、モラルの問題等について、家庭内の話題として、この話題を更に隣近所と話題の輪を広げ町全体の輪を更に拡大し、美しい郷土光町を子や孫に継承したいものだと想っている。今日この頃である。

可燃ゴミと不燃ゴミは、必ず区分して出しましょう！